

平成28年度 上越市社会科部 活動報告

部長 杉田 健一

1 研究主題

誰もが「参加できる」「わかる」授業の工夫～思考を深めるための学び合いを通して～

2 研究の概要

研究主題を達成するための方法として、学習課題の工夫と思考を広げたり深めたりするための学び合いの工夫という視点から取り組むこととした。その際、「県中教研 授業ナビゲーション 学び合い10(社会)」との関連を図るとともに文部科学省から示されたアクティブラーニングの視点も加味して考えることにした。

3 研究の実際

(1) 公開授業 授業者 城東中学校 丸山 徹也 教諭

① 単元名 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 ～ 日本の農業 ～

② 単元の目標

日本の産業・資源について、世界的な視野から見た日本の地域的特色をとらえる活動を通して、我が国の産業の特色を資源・産業の面から大観させる。

③ 手だて

- ・誰もが参加できるための事前の準備や学習過程を工夫する。
- ・自分の考えが深まるよう多くの意見が見えるように1枚のシートに書き残し、比較・関連させる活動を設定する。

④ 学びの過程を「見える化」する

社会の授業にありがちな「受け身的な態度」や「深まりに欠ける話し合い活動」などの課題を解決するために、表現ツールと記入の仕方を工夫し、1時間の学びを「見える化」する。このことで、以下の3つの効果を期待している。

ア 話し合いの流れや内容が捉えやすく、見通しのある主体的な学びにつながる。

イ 自他の意見を比較・関連・共有でき、対話的な学びをうながす。

ウ 自分や他者の考えやその変化を確認でき、思考を深める。

⑤ コミュニケーションボードの活用

ア 円卓型コミュニケーションボードを活用し、より主体的、対話的に話し合いができる環境をつくる。

イ コミュニケーションボードの記入の仕方を適切に指示し、授業の流れに合わせて、自分の意見や仲間の意見、班での話し合いの内容を段階的に「見える化」する。そうすることで、見通し、振り返りのある授業、主体的・対話的で深い学びをうながすことができる。

ウ コミュニケーションボードへの記入は、「わかりやすく」を大切にす。キーワードで表現したり、要約したりできるように、適切なアドバイスを行う。

4 成果と課題

授業研究会最後の指導・講話では、学習指導要領の方向性と授業改善のポイントに焦点を当て、アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善を行っていくことの重要性を私たち教員に強く訴える内容であった。また、公開授業の実践例と理論の両面から学ぶことができる機会となった。指導方法や開発教材、授業参観等の面で小中がお互いに普段着の交流ができる関係づくりをより一層推進していく必要がある。